

あなたの声を市政に届けます!

# 人の輪だより

村上ひろしと市民ネットワーク「後援会」

〒862-8601 熊本市中央区手取本町1-1

TEL (096) 328-2650

FAX (096) 324-7777



## 「世界中が平和な一年に!!」



新しい年を迎えていますが、私がずっと気になっているウクライナ戦争は終結を迎えないまま年明けしました。2022年2月、ロシアの突然の武力侵攻で始まったウクライナ戦争は、ロシアという大国による領土拡張から始まっており、私はロシアの理不尽さとプーチン大統領に、憤りを覚えています。

ウクライナ出身の大相撲の安青錦関の大活躍に嬉しさを感じるものの、ウクライナでは多くの若者が戦場で命を落とし、幼い子どもたち、国民が恐怖の毎日を送っていることを考えると、戦争が1日も早く終わることを心から願うばかりです。

私は、New & Goodsにわが家の「戦後80年」について書きましたが、わが家の家族は、「熊本大空襲」でこの世に存在しなかったかも

知れませんでした。奇跡的に命の縁を頂き、今があり、2026年の新年を迎えることができました。

世界中には、他にも戦火に怯える国が沢山あります。そんな国々で1日も早く戦火が収まることを願っています。

また、健軍自衛隊に長射程ミサイルが配備されるとの報道には怒りを感じています。瓦礫の前で、幼子の亡き骸を抱いて悲しむ母親の姿を見たくはありません。いつの時代であれ、国の舵取りは外交の力、話し合いで問題を解決することを基本とすべきです。

今年こそ、世界中に笑顔が溢れる1年になることを心から願って新年の挨拶とします。

熊本市議会議員 村上ひろし



# 今年も村上さんの

## 田邊 利徳さん

### 子どもたちの未来のために

私は月1回、村上市議が開催される学習会に参加しています。学習内容は、児童福祉(不登校、虐待、社会的養護、SSW、子ども食堂、ヤングケアラー、里親等)、子どもを取り巻く環境をよりよいものにできるよう、色々な立場の方々と意見交換をしながら学習しています。

学習した内容は村上市議自身がまとめられ、市政の課題として取り上げて頂いています。子どもたちが住み慣れた地域で安心安全に生活していけるように、1人1人の意見を丁寧に、また迅速に対応されている姿は素晴らしいと感じています。

今後も子どもたちの明るい未来のために、村上市議のご活躍を期待、応援しています。



## 宮田 稔大さん(NPO法人系 理事長)

### 新年のご挨拶

NPO法人系は、在宅の高齢者・しょうがい者の在宅支援を行っています。

村上市議と出会ったのは約20年前。私がしょうがい者施設で勤務していたころです。そこから今日に至るまで「しょうがいのある方の生活が良くなるように」という話を、相も変わらず続けています。

現在、話をしているのはヘルパーの担い手不足について。これは地域社会で過ごす高齢者・しょうがい者の大きな課題です。有名な企業が熊本に来て盛り上がる一方で、足下の福祉に関わる人材が急激に減少しています。

全体の興味のある遠くの華やかな光景ではなく、身近な足下の課題を扱うのが村上市議の仕事です。自分の目で見て、耳で聞いて、一人ひとりの課題にきめ細やかに対応する。20余年変わらない姿勢が安心に繋がります。



## 藤本 直子さん(元教師)

### 市政報告会に参加して

応援している気持ちを伝えるために、村上博さんの議会での質問や市政報告会に参加しています。いろんな事に気付かされたり、話を聞いて視野が広がったりしています。「市庁舎建て替え」「バリアフリーマスタープラン」「市電のトラブル要因」など、様々な話を聞くことができました。

これからの日本の事を考えると、防衛費だけが増え、他は削られていき、暮らしはどうなっていくのかと、私は何もできないと暗い気持ちになっています。

先日参加した市政報告会で思いました。こんなに身近に私たちの声を聴き、市・県・国にその声を届けてくださる村上博さんがいる。村上さんを応援し、共に活動することは私にもできます。少し気持ちが晴れてきました。



## 坂本 道子さん(元教師)

教員を退職しましたが、時々現職の組合員の先生から職場の話を知ることがあります。多忙化解消への行政の取組みは始まりましたが、依然として厳しい状況のようです。「時短勤務(介護他)を取りたいが、補充の職員の配置が難しいので申請しづらい」「欠員のため専科や教務主任が年度途中から担任に入り、職員室に余裕が全くない」「教材費の会計システムがより煩雑になり、放課後に多くの時間を費やす」など、切羽詰まった職場からの声に胸が苦しくなります。一方で、どんなに忙しくても子どもたちとの何気ない会話にほっこりするという話もよく聞きます。

教員が子どもたちと心を通わせるひとときを保障できるような抜本的な改革を多くの教員が望んでいます。村上さんに以前のような学校訪問をお願いしたいという要望も数人から伺っています。教員の生の姿を見て頂けたら幸いです。今年もどうぞよろしくお願い申し上げます。



## 井澤 文江さん(南区平成在住)

### 村上議員に期待すること

村上議員は、自身の経験を活かし、これまで政治の場で十分に拾いきれていなかった高齢者・妊婦・子育て世代など多様な立場の住民の声を市政に届けてきました。障がいは誰でもなり得るという視点から、共生社会のまちづくりのため、幅広い視点での貢献を期待しています。村上さんが議員として活躍する姿が、他の障害を持つ人たちの社会参加への意欲を高めており、また、一般市民や行政職員の障がいに対する意識の変化をうながし、偏見をなくすことにも繋がっていると思います。障がい当事者としての専門的な視点から、きめ細やかなバリアフリーでユニバーサルな政策で、多様な条件を持つ人々が暮らしやすい地域社会を実現して欲しい、と願っています。その中心的な役割を担ってもらえるように今年も期待しています。



## N.Kさん(中央区萩原町在住)

先日は自宅までおいで頂き、村上市議とお話できたこと、嬉しかったです。ぜいたくなひと時でした。

「New & Goods 17」の議会報告、「戦後80年」「水害のこと」「女性消防団員のこと」など、色々勉強になりました。次のお便りを楽しみにしています。

村上:市議会への最初の挑戦の時から、毎回、変わらず熱心に応援いただき、有り難い限りです。近くまで行った折に立ち寄らせて頂いた時のこと、こんなに喜んで頂き、直にお話を伺うことの大きさを学びました!!

# 行動力に期待！！

## 植田 洋平さん (ヒューマンネットワーク事務局長)



2025年は障がいのある私にとって、印象的な1年でした。これまで障がいのある人が福祉サービスで認められる入浴は週5回まででした。夏に汗だくで帰ってもお風呂に入れない日があるのです。何度基準の見直しを求めても、いつまでもその基準は変わりませんでした。しかし、村上博市議が議会で質問として取り上げていただいたことや、担当課との意見交換の場で、会派を超えて日隈議員と三森議員にも声をかけ、同席いただいて私たちの意見を後押ししていただきました。その結果担当課が動き、「週7日入れるように改正を進めます」と回答があったのです。約20年の間認められなかった毎日の入浴がようやく認められる日が近づいています。

村上博市議には、行政から引き出した回答を反故にされることのないように、基準改訂に向けて尽力いただきたいです。

## 松崎 保治さん

### 益々のご活躍を！！



村上市議との出会いは、4年前の8月、長満団地が初めて受けた水害(床下浸水一戸、冠水車2台)の相談がきっかけでした。以来、村上さんの議会及び行政対応により、周辺水路の浸水対策は飛躍的に進みました。

昨年8月の未曾有の豪雨の時でも、大きな被害がなかったことは、これらの取組みの成果であると考えております。更に、昨年8月26日、市と団地住民との意見交換会で「道路下への貯留管整備事業」が進められていることを知りました。

議員活動の中で、「うまみ」のない事案に、ご尽力頂いていることを多くの市民は知っています。村上さんの政治信条は、『寄り添なき人々に寄り添い、すべての人にやさしい社会の実現』にあります。私は、そんな村上市議に尊敬の念を以って応援し続けたいと思っています。

## 住谷 理香さん(虹色の会 会員)



ご自身が地域の学校で過ごして来られてきた際の経験と、そこで感じた悔しさや苦しさを忘れず、同じ思いを子どもたちにさせたくないという強い願いを行動につなげてられる姿に、深い敬意を抱いています。地域の学校に通う医療的ケアが必要なお子さんや身体的配慮が必要なお子さんが、校外学習や修学旅行のたびに保護者の付き添いを求められる状況にあることを受け止め、丁寧に耳を傾け、必要があれば学校にも足を運んで話を聞き、改善に向けて粘り強く働きかけてくださる姿勢は、保護者にとって大きな支えです。地域の学校に通う子どもたちの未来を拓くその歩みを、心から応援しています。

## 片山 祥子さん(学園大学)



私は大学院生として、高齢者、障害者、子ども、支援者、それぞれの当事者性について学び、考えていくなかで村上さんに出会うことができました。

村上さんは、社会で巻き起こる出来事や、そのなかで生きる人々に真摯に向き合われ、当事者の声を市政へ届けながら社会変革を実践してこられた方だと、対話するなかで実感しました。

これまで、「ソーシャルアクション」や「アドボカシー」、「エンパワメント」のように、ソーシャルワーカーなどの支援者が取り組んでいくべき実践について私自身、考えてきましたが、それを現実的にどのように取り組むのか、その熱意と実行力を村上さんから教えていただいています。

当事者の声に基づいて、社会をよくしていきたいと思っている人はたくさんいると思います。そうした人たちが村上さんに出会い、ともに考え、対話していける機会が広く開かれることをこれからも願っています。

## 岡 成也さん

### (「村上ひろしと市民ネットワーク」会長)



新年、明けましておめでとうございます。皆様におかれましては輝かしい新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

私たちの代表である「村上ひろし」へのご支援と応援に多大なるご尽力をいただき、心から感謝申し上げます。本年もより一層のご支援とご協力を賜りますと幸いです。

市政が抱える課題は時代と共に変化し、多岐にわたります。多様化する社会の在り方から見過されている人々に目を注ぎ、弱い立場の人に寄り添って、議会に声を届け、行政に反映させることを願います。特に福祉や教育、環境等、「熊本市民で良かった」といえる街になる様に共感の輪を広げ、成熟した市民社会の形成を目指して活動してほしいと思います。

会員の皆様におかれましては、なお一層のご支援とご協力を賜りますと共に、皆様のご健康とご多幸をお祈りし、新年のご挨拶とさせていただきます。



## 丸山 力さんを偲んで

1997年8月、熊本市交通局は、日本で初めてとなるLRT(低床電車)を導入しました。昨年、7月末に丸山 力さんが天国に旅立たれました。丸山さんは、本業のパイプオルガンの製作以外にも幅広い分野について知識が広く、見識を持った人



「丸山 力さんを偲ぶ会」での挨拶

でした。その丸山さんが、私やヒューマンネットワーク熊本、バリアフリーデザイン研究会にLRTの存在を教えてくれたのです。特に、路面電車や鉄道に造詣が深く、ヨーロッパの路面電車事情にはとても詳しい方でした。



ヨーロッパでは1980年代当時から、すでに当たり前のように市民の足として、また街の賑わいに貢献していた「LRT」の存在を私は全く知らなかったのです。電停から誰の手伝いもなく車いすでも路面電車に乗ることが出来る、そんな夢の様な話など、全く想像もできなかった事でした。その情報を教えてくれたのが丸山 力さんだったのです。

バリ研の例会終了後、大江市民センターの前庭で、バリ研の森重会長、白木事務局長、それに私の3人で、ヨーロッパの現状を見に行くことを相談し、即決で決まりました。

そして、1994年6月に総勢20名の仲間を募り、フランス、ドイツ、スイスの3カ国を訪問しました。丸山さんの情報通り、ノンステップのLRT(低床電車)が走っていました。グルノーブル市(仏)の関係者、アン・フェルナンデスさんが、1987年に導入されるまでの経緯を説明してくれました。当時のヨーロッパは、自動車の排気ガスによる大気汚染が酷く、様々な取り組みがなされていましたが、グルノーブル市でも排気ガスに加え、車による街中の大渋滞が大きな課題となっていたのです。

しかし、グルノーブル市は見事に排気ガスと交通渋滞の大きな課題を克服しました。30数年も前に、グルノーブル市だけでなくヨーロッパ各国の状況を詳細に知っていた丸山力さんの情報源は何だったのだろうと不思議です。

晩年の彼は、ガンの治療と闘いながらも、私は、宇都宮市、広島市、富山市、東京都電の視察計画を相談していました。ご逝去されたことは誠に残念ですが、ご冥福を心からお祈りします。